

令和5年度

名城大学新任教員FD・SD研修会/第19回FD・SD学習会

# 学生の主体的な学びを促す授業設計 ～学習到達目標から授業を見直そう！～

- 日時：2023年9月12日（火）13:00～14:20
- 講師：安部 有紀子准教授 竹永 啓悟 特任助教  
（名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立大学機構  
QTA・GSIトレーニングセンター）
- 対象：令和5年度採用新任教員（参加必須）  
学内教職員・特任助手・非常勤講師・大学院生
- 方法：Zoomによるオンライン開催
- 共催：名古屋大学 高等教育研究センター〔質保証を担う中核教  
職員能力開発拠点〕  
東海国立大学機構 アカデミック・セントラル QTA・GSI  
トレーニングセンター

## 企画内容

「良い授業」とはどのような授業なのでしょう？  
近年、「大学教育の内部質保証」という言葉をよく耳にするようになりました。この「大学全体の教育の質向上」のサイクルに「自分が担当する授業」を連動させていくことは、授業を実施する教員にとっても大きなメリットがあります。

本セミナーでは、近年注目されている「学生の主体的な学びを促進するための授業設計方法」をご紹介します。特に「学習到達目標の設定」に焦点を当て、普段の皆さんの授業を見直していく機会にしていきたいと思っております。

## 申し込み方法・問い合わせ先

下記URL等からお申し込みください。

<https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZEtc-qrTIpHN2VhmXLx6hKALcmf66eqoz8>

※お申し込み後、参加方法の詳細が 自動メールにより送付されます。

《お問い合わせ》

名城大学 大学教育開発センター

TEL：052-838-2032（内線：2653）



# 新任教員 FD・SD 研修会/第 19 回 FD・SD 学習会 実施報告

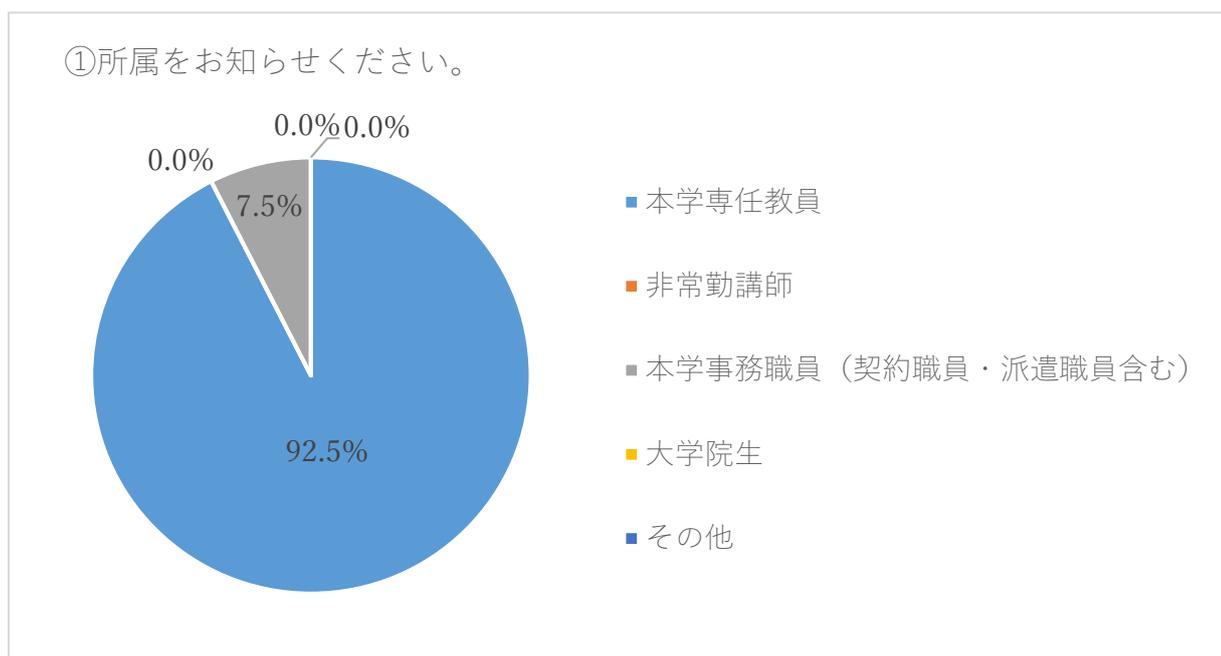
## 1. 実施概要

- 日時：令和 5 年 9 月 12 日（火）13:00～14:20
- 場所：Zoom によるオンライン開催
- テーマ：学生の主体的な学びを促す授業設計～学習到達目標から授業を見直そう！～
- 講師：名古屋大学 高等教育研究センター・東海国立大学機構 QTA・GSI トレーニングセンター  
准教授 安部有紀子、特任助教 竹永啓悟
- 共催：東海国立大学機構 アカデミック・セントラル QTA・GSI トレーニングセンター  
名古屋大学 高等教育研究センター〔質保証を担う中核教職員能力開発拠点〕
- 参加者数：66 人（専任教員 58 人、事務職員 8 人、非常勤講師 0 人、大学院生 0 人）

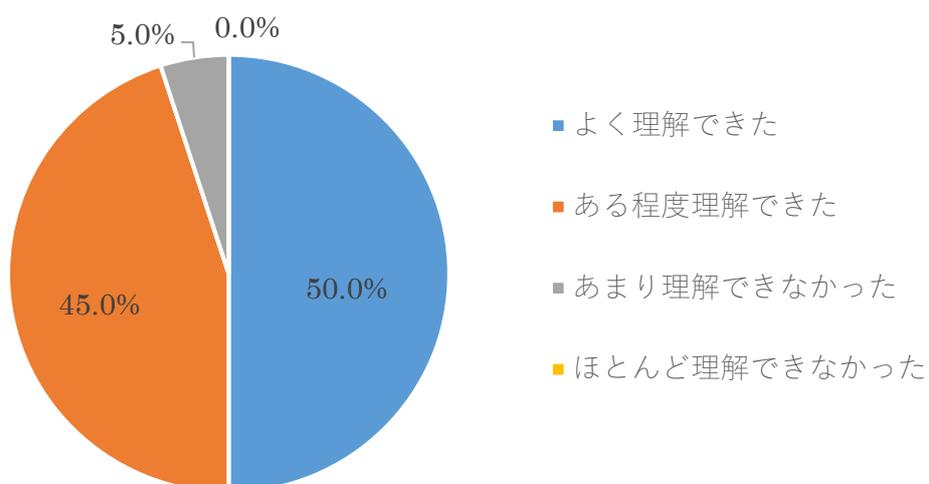
## 2. アンケート方法等

- アンケート方法：Google フォーム
- 質問項目：以下のとおり
  - ①所属をお知らせください
  - ②本日の内容は、理解できましたか？
  - ③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？
  - ④本学習会の満足度について教えてください
  - ⑤講演の感想をお聞かせください
  - ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。
  - ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。
- 回答者人数(質問①～④)：40 名
- 質問⑤～⑦について主な意見のみを示しています。（※一部抜粋・改稿を含む）

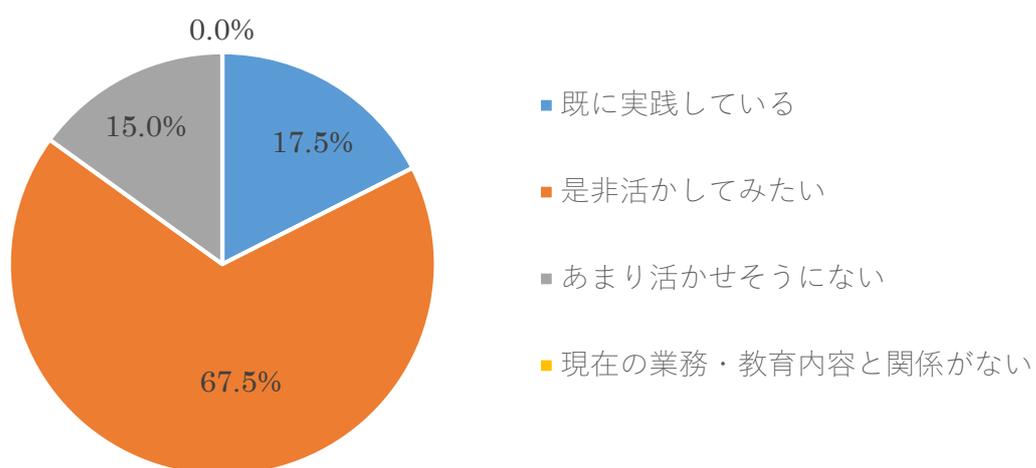
## 3. アンケート結果



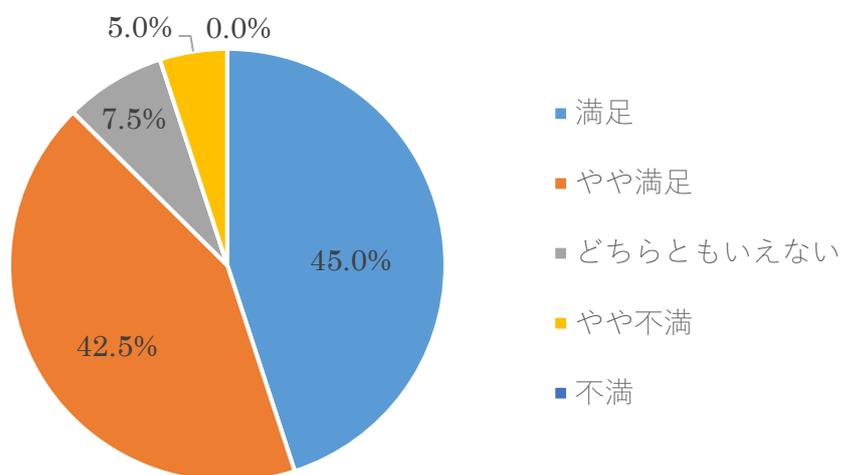
②本日の内容は、理解できましたか？



③本日学んだことを、学部や個人の教育活動に活かしてみたいと感じましたか？



④本学習会の満足度について教えてください



## ⑤講演の感想をお聞かせください

- ・到達目標の重要性がよく理解できました。次回のシラバス作成の時に生かしたいと思います。
- ・シラバスの考え方がよくわかった。
- ・時間の関係で絞った TOPIC ではあったが、非常にためになる機会で、自身のシラバスを見直す機会になりました。
- ・到達目標から、作成するという考え方は、よくわかりました。
- ・自らのシラバスを客観的にみることが出来ました
- ・おそらく私の理解力の問題だと思いますが、内容や概念の区分に矛盾するような箇所が散見され、うまく呑み込めませんでした。
- ・自分自身の授業の到達目標や構成など振り返る良い機会になりました。
- ・授業デザインの参考になりました。ありがとうございました。
- ・大変参考になりました。
- ・前職でシラバス作成方法について厳しく指導されていたので実践はできているつもりですが、内容を再確認でき、新しい発見もありました。ありがとうございました。
- ・ブレイクアウトルームにて他学部の先生方とお話ができる機会を得てよかったと思います。分野は違いますが、共通した部分も多々あったことが収穫でした。
- ・到達目標からバックワードで設計を見直すことの重要性は理解できたが、すでにその考え方は期末の試験結果をみて学生ができていないところを確認してその部分をどう教えるべきかと考えるのはある意味バックワード設計・・・と考えた。また、到達目標はこれ以上なく単純に説明できる、と掲載しているがこれが正しいのかももう一度考えてみたい。
- ・わかりやすいお話、話し方で理論的にお話いただき、理解が進みました。
- ・講義と自身の研究内容との共通性、および当該講義の内容がその後の講義内容に深く関わっているのかどうかが大きく関わるように思われる。私の担当講義が上記2点のどちらとも関係が薄かったため、学べる部分が少なかった。
- ・学習目標について具体例や理論をご教授頂いたので、短時間でもよく学べたと感じた。
- ・学習目標のレベルの意味については勉強になりました
- ・バックワードデザインについての知識を今後の講義に活かしていきたいです。
- ・他学部との教員と話す機会があったことは良かった。
- ・自分は一昨年まで大学院生だったので、ここ数年の間でシラバスをつくるという新しい作業をしなければなりません。そこでまず私が取り組んだことは、関連する科目の既存のシラバスを可能な限り調べるということです。思いつく大学のHPに片っ端からアクセスして似たような名前の科目の講義のシラバスを確認して内容を比較し、自分がシラバスや講義の内容を考えるときの参考にしました。そのおかげで、本日の研修会で教えていただいた内容を体感として認識して実践できていたように思います。あの経験がとても大切だったんだということを改めて感じるとともに、学術的に体系化することができた講演会でした。ありがとうございました。見落としてしまっていたことを再発見できたのは一番大きな収穫であった。特に、目標に数値を入れるということであった。ブレイクアウトルームは良かったです。
- ・ブレイクアウトルームでのワークは、やる前は面倒だと感じたが、やってみると非常に良かった
- ・バックワードデザインなる概念やその意義については理解しましたが、それをどこまで実践できる・実践すべきかとなると、授業の種類や配当学年によって大きな幅があるのではないかと思います。
- ・他学部の先生方がシラバス作成上、どのようなことで悩んでいるか知ることができ、有意義でした。
- ・バックワードデザインの考え方は知らなかったため、参考になった。また、ブレイクアウトルームによる教員間のワークがシラバスについて議論できたのは大変良かった。ただ、学生の主体的な学びを促す具体的な授業の見直し事例がなかったのが残念。
- ・授業設計について改めて考える機会となり良かったと思います。
- ・非常に面白く、分かりやすかった。
- ・学部・学科また科目によっても目標は異なります。
- ・自分の分野では、適切な動詞を使って目標を記述することに難しさを感じました。特に、「⑤評価する」がどのようなことに対応するのか思いつきませんでした。また、「⑥創造する」につきまして、学部生では難しいように思う部分がありました。
- ・今回の内容をもとに、自分のシラバスを見直してみようと思います。

- ・グループワークで互いの到達目標についてアドバイスし合ったことが有益でしたが、時間が足りませんでした。グループワークの時間がもう少し長くあると、より深い所まで議論できたと感じました。授業を一方的ではなく双方向にしたり、グループワークを取り入れて自分たちで情報を集めて考えさせたり、発表させたりしたいのですが、受講人数が多い（130人）、ノートPCやタブレットを全員が持っていない&パソコン室が使えない（スマホしか使えない）、固定された机・イスでグループをつくったり移動したりしにくい、といった現状があります。受講人数の改善は難しいかもしれませんが、ハード面でノートPCを全員が持てるようにしたり、可動式の机やイスがあったりすると、到達目標の次元をより高度に設定することができます（スタンディングデスクのような立って使えるようなものもあります）。バックワードデザインをしたいのですが、現実には、この学習環境でできることを考えざるを得ないかなと思いました。ただ、今回の研修会を通して新たな気づきや改善できることが見つかったので、今後取り入れていきたいと思います。有益な企画をありがとうございました。

#### ⑥何が決め手となって、この学習会に申し込みをされたかお聞かせください。

- ・新任教員であるため。
- ・FD・SDの研修を受けてみようと思ったため
- ・シラバスを記載する際のポイントを知りたかったため。
- ・後期の授業が始まるので授業設計を見直す機会になればと思い申し込みました。
- ・シラバスの作成の一考察になればと思い参加しました。
- ・今よりも良い講義になるメソッドを常に探しているので申し込みました。
- ・学部FD・SD委員であるため
- ・自身の授業改善のため
- ・FDには必ず参加している。
- ・FD活動の一環
- ・学部のFD・SD担当となったため、
- ・初年度教員の参加が必須であったから
- ・内容に興味があった
- ・大学教育開発センター委員であるため
- ・「到達目標」の書き方について疑問を持っていたため、申し込みました。
- ・学生の主体的な学びを促すヒントが得られると思ったため。
- ・大学の教員として参加すべきと思ったから
- ・FD・SD関連の学習会はできるだけ受講するようにしています。
- ・教務系の業務があり、シラバスの内容を深く理解したかったから。
- ・FD研修会に参加することが、教員の自己評価のポイントとしてカウントされるから。
- ・より良い授業をしていくためのヒントを得たいと思ったから。

#### ⑦テーマ、ご希望の講師（学内外問わず）について、ご意見ご希望がありましたらお聞かせください。

- ・大学教育におけるICTの活用などいかがでしょうか？
- ・学習到達目標に対して、学生自身が自己点検する仕組みでルーブリックも有効だと思います。このあたりも今回のようなワークを入れる形で練習をしてみると導入が進むのではないかと思うので、テーマとしてご検討いただければ幸いです。
- ・実際のシラバス（他大学のものでも良いので）を例にして添削結果を示してほしい
- ・学生により理解できるようなシラバスが作製できればと思いました。自分のシラバスで「理解する」をあまりにも多投していることが再認識できました。
- ・シラバスの学修目標、本学の到達目標を書く欄を改善して大きくしていただいた方がよいと思います。項目立てて書こうと思うと2行しかなく不足です。
- ・研究活動に進むことを念頭に置いた高等教育のあり方について訊いてみたい。研究への興味を引くような講義内容みたいな部分がフォーカスされなくなってきているため。
- ・企業から見た学生採用における大学の役割
- ・効果的な授業方法。

- 最後思い出したことは、英語圏ではシラバスは学生と教員との「契約」であるという大前提の重要性です。この理解が進めば、日本でも改革につながるのではないかと思います。  
テーマへの意見ではありませんが、本日の学習会を受けて、本学のシラバスの到達目標欄が狭すぎるのではないかと思います。学生側から見るシラバスでは、展開されると思いますが、教員側が記述する際、全体が見えるように欄を大きくとっていただけるとよいと思いました。  
数学ができないで入学してきた文系の学部生に、どうやって数学を勉強させるか。動機付け・難易度の設定・正課外で教育を行う場合の制度設計など。
- 今回の内容を、続編として、より深掘して学びたいです。例えば、参加者一人一人がシラバスの到達目標について説明し、講師を含めた参加者全体からアドバイスをもらう。これを時間いっぱい繰り返すだけでも、講師や互いのアドバイスから学ぶことは多いと思います。

以上